

## 令和5年度 卒業式 式辞

日ごとに寒さが和らぎ、木の芽お越しの雨に春の訪れを感じる今日の佳き日、令和5年度卒業証書授与式を挙行いたしましたところ、同窓会副会長古門様、PTA会長岡田様、PTA役員の皆様をはじめ、多数の保護者の皆様のご列席を賜り、誠にありがとうございます。高いところからではございますが、厚くお礼申しあげます。

ただ今、卒業証書を授与いたしました343名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんにとって、この3年間の前半は、コロナ禍での、制限のある学校生活でした。

当たり前と思っていた日常が変化し、昼休み時間の黙食、部活動の制限、体育祭の種目変更、文化祭の規模縮小、さまざまなことを受け入れざるを得ない状況となりました。

特に、修学旅行の延期・行先変更については、皆さんに辛い思いをさせてしまい、大変申し訳なく思っています。

あの時の皆さんからのアンケートの回答の一つひとつが、今も私の胸に深く刻まれています。

しかし皆さんは、先生方や保護者の皆様の支援や見守りを受けながら創意工夫し、日々の勉学はもとより、部活動や学校行事、課題研究に前向きにチャレンジし、たくさんの笑顔とともに成果をあげてくれました。本当にありがとうございます。

今年度になって、新型コロナウイルス感染症の分類が5類へと移行され、体育祭や文化祭で、皆さんがほぼ従前のように行事に打ち込むことができたこと、保護者の皆様にその雄姿をみていただく機会をつくることができたことは、本当に良かったと思っています。

3年生になって受験が近づく中、勉学モードに切り替え、講習会に熱心に参加してくれました。朝早く登校して自習に励んだり、廊下で先生をつかまえて納得いくまで質問したり、進路指導室に行って新しい情報を積極的に入手したり、最後の最後まで、先生方の指導を信じて、頑張ってくれています。これは、現在も進行中です。

さて、いよいよ皆さんは、「自由と創造」「日新日進」を胸に、高津高校を卒業し、進路実現に向けて旅立ちます。

今年度の高津クリエイトラボセミナーで、先輩たちが進路実現について語ってくれたお話を三つ紹介します。

ある卒業生の方は、「大学に入学してから子どもと触れ合うボランティアをしていく中で、幼い段階で病気になる子どもたちの存在を知り、一念発起して勉強し、医学部に転学し、小児科医になった。小児科医になって、次に子どもの虐待に直面し、今は、この課題に向き合っている。」というお話をさせていただきました。

また、ある卒業生の方は、「商品開発を夢見て食品会社に入社し、工場長などさまざまな部署で勤務していく中で、もともとあった商品を大ヒット商品に昇格させ、結局自分に一番向いているのは経営であると気づいた。」というお話をしていただきました。

また、ある卒業生の方は、「大学で進みたかった専攻分野には行くことができず、当時新設された学科に進み、今では、その分野で第一人者として地球規模の課題に取り組んでいる」という話をしていただきました。

これからの人生において、思い通りにいかないことや不条理と思えることなどの課題に直面することがあると思います。

でも皆さんには「自由と創造」「日新日進」という二つのアイテムがあります。この二つのアイテムを武器に課題に向き合い、どうすれば解決できるのかを考え、自己実現に向けて行動してほしいと願っています。

正解はなくても、その時点での最適値は必ず存在します。

そして、その延長線上にある、進路実現をめざしてください。

今、皆さんが手にした卒業証書は、皆さん一人ひとりの努力によって得られたことはもちろんですが、その陰には、深い愛情を持って見守って下さったご家族、先生方、友人、同窓会、地域の方々など、多くの人たちの励ましや支えがありました。このこともしっかりと胸に刻み、感謝の気持ちをいつまでも忘れないでください。

最後になりましたが、76期生の保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

保護者の皆様には、この3年間、本校教育活動へご理解、ご協力を賜りましたことに、教職員を代表して、深く感謝申し上げます。ありがとうございます。「明日の理想の達成に向け、信ずる道を進む」皆さんの前途を祝し、今後の限らないご活躍とご発展を心から祈念して、式辞といたします。

令和六年三月一日

大阪府立高津高等学校長 立川 猛士